



2006年4月15日(土)●六稜会館にて●13:30開場14:00開演

手塚治虫は六陵人!?

無視できない手塚治虫史のウソ

手塚治虫は語りたくなる漫画家である。生前も、そして死後はいつそう著作の検証が行われ、今もそれは続いています。

彼の旧制北野中学時代の漫画活動についても、漫画研究家諸氏の著書に紹介され、私のような一介のファンですら、本校赴任以前から、例えばプールを作るために土を掘っただとか、例えば地歴班なんという今の部活動に所属していたとかいう事実を知っていました。六稜昆虫研究会の紹介もよく目にしました。手塚が友人と作ったグループで「甲虫図譜」「昆虫の世界」といった肉筆誌を作っていたそうです。

慌てずに。変換ミスではありません。

手塚治虫は在校中から、百周年行事を終、生涯を終えるまで「六稜」を「六陵」と記しました。従って手塚研究の上ではすべて「六陵」。漫画史上では「六陵」

昆虫研究会

会なの

です。

六陵の旗の

もとに永遠に

手塚治虫

手塚治虫については、膨大さゆえ、ひとりですべての作品の検証はできません。

人の研究の成果の上に自分の研究を始めることになりません。殊にアニメのアトム世代、昭和三〇年代生まれの者にとっては、デビュー当時の作品に直接触れることが難しい。人の研究著書から間接に得ることの方が大きかったりするのです。

このことはつまり、一冊の研究書の中の小さなミスが検証されないまま、定説にすらなってしまう可能性を意味しています。「六陵」はこの先も「六陵」のままなのかもしれません。

そんな漫画史上の間違いを探していくと、やっぱりその偉大さが浮かび上がってくる手塚治虫という人なのです。(文中敬称略)



岩倉哲也さん@北野高国語科
IWAKURA Tetsuya

北野高等学校教諭。手塚治虫ファンクラブ会員。1961年大阪府生まれ。一歳半で虫プロダクション制作のモノクロアニメ「鉄腕アトム」を見て以来の手塚ファン。生涯かけての手塚全作品読破を夢見ている。

2003年北野高校着任。国語を教え、三年生の担任業務を行う傍ら、校内外からの手塚に関する様々な疑問に答えている。



【次回予告】六稜トークリレー【第30回】2006年5月13日(土)14:00～
松岡信道さん@111期(NPO法人JASSE設立発起人)「現代若者事情(仮題)」